



# Service Registry 3.1 リリース ノート (UNIX 版)



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 820-0493  
2007 年 2 月

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun<sup>TM</sup> Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

# 目次

---

<b>1 Service Registry 3.1 リリースノート</b> .....	5
Service Registry 3.1 の新機能 .....	5
Service Registry の新しいアクセスポート .....	5
Service Registry の新しいパッケージ名とインストールパス名 .....	6
新しい設定ターゲット名 .....	7
障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能 .....	7
実装に固有の API .....	7
デフォルトのパスとファイル名 .....	7
ハードウェアとソフトウェアの要件 .....	8
パッチと必須ファームウェアのレベル .....	8
Service Registry 3.1 のマニュアル .....	9
関連マニュアル .....	9
今回のリリースで修正されたバグ .....	10
既知の問題点とバグ .....	12
6248218: バージョン管理された RegistryPackage のコンテンツが失われる .....	12
6248293: Classification がオブジェクトの古いバージョンと新しいバージョンの両方に追加される .....	12
6248418: Classification、ExternalIdentifier、または Slot を追加すると、副作用として ExternalLink が削除される .....	12
6359188: ユーザーが所有している非推奨オブジェクトとの間に関連付けを作成しようとしても、IllegalStateException が発生しない .....	13
6374079: Person と User の詳細領域が同一ではない .....	13
6407168: 管理ツールの add association コマンドで紛らわしいエラーが出力される .....	13
6407195: 大半の管理ツールコマンドが lcd 設定を無視する .....	13
6407974: 一時ディレクトリに多数のファイルが取り残される .....	13
6436598: ソースオブジェクトを削除または更新しても、カタログ化されたオブジェクトが WSDL カタログ化サービスによって削除または更新されない .....	14
6479361: FindAllMyObjects の表示に呼び出し元のユーザーが含まれるべきではない .....	14

6487653: オブジェクトの作成で「状態の設定または変更」ボタンが動作しない	14
6499274、6501767: 変更したオブジェクトの状態が NULL	14
6500654: 「Classification ノードの選択」ウィンドウの説明とボタンが一致しない	15
6500668: 「ユーザー登録ウィザード」にアスタリスクに関する説明がない	15
6502100: WSDL カタログ化サービスがスラッシュで終了する java.io.tmpdir を処理しない	15
6507387: バージョン管理が有効な場合、既存の Service を Organization に追加しようとするとう失敗する	16
6513883: HP-UX システム上で、Internet Explorer 6 でのユーザー登録が失敗する	16
互換性について	16
サポートが終了する機能について	16
互換性に関連したバグ	16
各国語化の問題	22
6276676: Web コンソールに、ローカライズされた文字列が表示されない	22
6493416: オンラインヘルプのリンクが英語ページになっている	22
6496070: イベントタイプ名が、どのロケールにも翻訳されていない	22
6499672: 英語以外のロケールで、オンラインヘルプのページが2ページ足りない	22
6500664: 日本語ロケールのオンラインヘルプで翻訳されていない文字列がある	22
6500673: 日本語ロケールで名前と住所の順序が正しくない	23
6500677: 日本語ロケールでオンラインヘルプに不正なリンクがある	23
6509544: いくつかのエラーメッセージが翻訳されていない	23
6510165: 「詳細」タブのオブジェクト名が翻訳されていない	23
6510540: リダイレクトページの1つの行が日本語に翻訳されていない	23
6515105: いくつかのロケールで、「ユーザー登録」テキストフィールドがない	23
マニュアルに関する情報	23
6500315: オンラインヘルプのページが1ページ足りない	23
6501734: オンラインヘルプで、ディレクトリの探索用の名前が間違っている	24
索引	25

# Service Registry 3.1 リリースノート

---

Service Registry は、ebXML Registry です。これは、標準メタデータや拡張可能メタデータで記述されたあらゆる種類の電子コンテンツを管理する連携されたレジストリおよびリポジトリの一種です。サービス指向アーキテクチャー (SOA) やその他のコンテンツおよびメタデータの、連携したセキュアな情報管理機能を提供します。ebXML Registry 3.0 および UDDI 3.0 レジストリプロトコルをサポートしています。

- 5 ページの「Service Registry 3.1 の新機能」
- 7 ページの「デフォルトのパスとファイル名」
- 8 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」
- 8 ページの「パッチと必須ファームウェアのレベル」
- 9 ページの「Service Registry 3.1 のマニュアル」
- 9 ページの「関連マニュアル」
- 10 ページの「今回のリリースで修正されたバグ」
- 12 ページの「既知の問題点とバグ」
- 16 ページの「互換性について」
- 22 ページの「各国語化の問題」
- 23 ページの「マニュアルに関する情報」

## Service Registry 3.1 の新機能

この節では、Service Registry 3.1 で新しく追加された機能と、サポートされている製品について説明します。

### Service Registry の新しいアクセスポート

以前のポート値 6060 が、X ウィンドウシステム (X11) の使用のために IANA (Internet Assigned Numbers Authority) に登録された値と競合したため、Service Registry のデフォルトのアクセスポート値が変更されました。新しいデフォルトのアクセスポート値は 6480 です。現在、デフォルトの Service Registry ポートはすべて IANA に登録されています。

Java API for XML Registries (JAXR) を使用している既存のクライアントをすべて、新しいポート値を使用するように変更してください。JAXR クライアントの場合、このポート値はプロパティ `javax.xml.registry.queryManagerURL` と `javax.xml.registry.lifeCycleManagerURL` で指定します。プロパティファイルにこれらのプロパティが定義されている場合は、クライアントを再コンパイルする必要はありません。

## Service Registry の新しいパッケージ名とインストールパス名

Service Registry パッケージは、表 1-1 に示すように名前が変更されました。

表 1-1 Service Registry のパッケージ名の変更

パッケージの説明	Java ES 4 のパッケージ名	Java ES 5 のパッケージ名
Solaris OS 上の配備パッケージ	SUNWsoar-server	SUNWsrcv-registry-deploy
Linux および HP-UX システム上の配備パッケージ	sun-soarserver	sun-srvc-registry-deploy
Solaris OS 上の開発パッケージ	SUNWsoar-sdk	SUNWsrcv-registry-dev
Linux および HP-UX システム上の開発パッケージ	sun-soarsdk	sun-srvc-registry-dev

Service Registry のインストールパス名もまた、表 1-2 に示すように変更されました。

表 1-2 Service Registry のインストールパス名の変更

説明	Java ES 4 のパス名	Java ES 5 のパス名
Solaris OS 上のベースインストールディレクトリ	/opt/SUNWsoar	/opt/SUNWsrcv-registry
Linux および HP-UX システム上のベースインストールディレクトリ	/opt/sun/SUNWsoar	/opt/sun/srvc-registry
Solaris OS 上のドメインとデータのインストールディレクトリ	/var/opt/SUNWsoar	/var/opt/SUNWsrcv-registry
Linux および HP-UX システム上のドメインとデータのインストールディレクトリ	/var/opt/sun/SUNWsoar	/var/opt/sun/srvc-registry

## 新しい設定ターゲット名

以前のリリースでは、Service Registry の設定に使用した Ant ターゲットの名前は `install` でした。このリリースでは、ターゲット名は `configure` です。install ターゲットは下位互換性のために引き続きサポートされていますが、今後のリリースでは削除される可能性があります。詳細は、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の第 1 章「Service Registry の設定およびセットアップ」を参照してください。

## 障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を Sun に請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。最新バージョンのアプリケーションは、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。アクセシビリティに関する Sun の方針については、<http://sun.com/access> を参照してください。

## 実装に固有の API

Service Registry には Java API for XML Registries (JAXR) の Version 1.0 仕様が実装されています。JAXR 1.0 は、UDDI および ebXML Registry 2.0 仕様をサポートするように作成されたものです。Service Registry における JAXR の実装には、JAXR 1.0 に対する非標準の拡張機能が含まれています。これらの拡張 API は、JAXR 仕様の今後のバージョンに対して使用され、今後の JAXR 標準に対する追加機能として考慮される予定です。

これらの拡張 API は、Service Registry の今後のリリースにおいて変更される可能性があります。Sun は、Service Registry の今後のリリースでこれらの API の下位互換性を維持するために、最善を尽くして参ります。ただし、場合によっては下位互換性を確保できない可能性もあります。したがって、これらの拡張 API を使用するユーザーは、今後のリリースでの Service Registry JAXR プロバイダ内のこれらの拡張に対する変更の可能性に注意するようにしてください。

## デフォルトのパスとファイル名

次の表は、このマニュアルで使用するデフォルトのパスやファイル名について説明したものです。

表1-3 デフォルトのパスとファイル名

プレースホルダ	説明	デフォルト値
<i>ServiceRegistry-base</i>	Service Registry のベースインストールディレクトリを表します。	Solaris OS の場合: /opt/SUNWsrvc-registry  Linux および HP-UX システム: /opt/sun/srvc-registry
<i>RegistryDomain-base</i>	Service Registry の Application Server ドメインが配置され、Service Registry データベースが配置されているディレクトリを表します。	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWsrvc-registry  Linux および HP-UX システム: /var/opt/sun/srvc-registry
<i>Ant-base</i>	Ant ツールの Java ES バージョンが配置されているディレクトリを表します。	Solaris OS の場合: /usr/sfw/bin/  Linux および HP-UX システム: /opt/sun/share/bin

## ハードウェアとソフトウェアの要件

この節では、Service Registry 3.1 をインストールする前に満たす必要のある要件について説明します。

ほとんどの部分で、Service Registry に対する要件は Sun Java System Application Server に対する要件と同じです。Application Server のディスク容量の要件に加えて、表 1-4 に示すディスク容量の要件があります。

表1-4 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	最小メモリ	推奨メモリ	最小ディスク容量	推奨ディスク容量	JVM
Sun Solaris 9、 10 (SPARC、 x86)	640M バイト	1G バイト	80M バイトの 空き領域	120M バイトの 空き領域	J2SE 1.4.2_10、 J2SE 5_09
Redhat Enterprise Linux 3.0 U1、 4.0	640M バイト	1G バイト	65M バイトの 空き領域	100M バイトの 空き領域	J2SE 1.4.2_10、 J2SE 5_09
HP-UX 11i (11.11) v1	640M バイト	1G バイト	65M バイトの 空き領域	100M バイトの 空き領域	J2SE 5_03

## パッチと必須ファームウェアのレベル

Java Enterprise System に対して記述されている以上のパッチは必要ありません。

## Service Registry 3.1 のマニュアル

Service Registry のマニュアルセットは、<http://docs.sun.com/coll/1314.2> で入手できます。Service Registry の詳細については、次の表に示すマニュアルを参照してください。

表 1-5 Service Registry のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Service Registry 3.1 リリースノート (UNIX 版)』	既知の問題など、Service Registry に関する最新の情報が記載されています。
『Service Registry 3.1 管理ガイド』	Service Registry のインストール後の設定方法、およびレジストリとともに提供される管理ツールの使用方法について説明します。その他の管理タスクの実行方法についても説明しています。
『Service Registry 3.1 ユーザーズガイド (2006Q4)』	Service Registry Web コンソールを使用して Service Registry を検索し、データを発行する方法について説明します。
『Service Registry 3.1 開発ガイド』	JAXR (Java API for XML Registries) を使用して Service Registry を検索し、データを発行する方法について説明します。

## 関連マニュアル

Service Registry をインストールすると、Sun Java System Application Server に配備されます。Application Server の管理については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.2 管理ガイド』を参照してください。

Java ES ドキュメントセットには、配備計画およびシステムインストールに関する情報が記載されています。システムマニュアルの URL は <http://docs.sun.com/coll/1286.2> です。Java ES の概要を理解するため、次の表に紹介されているマニュアルを、記載されている順番に参照してください。

表 1-6 Java Enterprise System のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 5 リリースノート (UNIX 版)』	既知の問題など、Java ES に関する最新の情報が記載されています。さらに、各コンポーネントのリリースノートが Release Notes Collection ( <a href="http://docs.sun.com/coll/1315.2">http://docs.sun.com/coll/1315.2</a> ) にリストされています。
『Sun Java Enterprise System 5 リリースノート (Windows 版)』	

表 1-6 Java Enterprise System のマニュアル (続き)

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 5 技術の概要』	Java ES の技術的および概念的な基礎について説明します。コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、機能についても説明しています。
『Sun Java Enterprise System Deployment Planning Guide』	Java ES に基づく企業配備ソリューションの計画および設計に関する情報を提供します。配備の計画および設計に関する基本的概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java ES に基づくソリューションを計画する際に使用する高度な例と戦略を提供します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストール計画ガイド』	Java ES の配備に関し、ハードウェア、オペレーティングシステム、およびネットワーク面の実装仕様の開発に役立つ情報を提供します。インストールおよび設定計画を遂行する上で注意すべきコンポーネントの依存関係などの問題について説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストールガイド (UNIX 版)』	Java ES のインストール手順について説明します。また、インストール後にコンポーネントを設定する方法、および設定したコンポーネントが正常に機能するかどうかを確認する方法についても説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストールガイド (Windows 版)』	
『Sun Java Enterprise System 5 インストールリファレンス (UNIX 版)』	パラメータの設定についての追加情報や、設定の計画に使用するワークシートを提供し、Solaris オペレーティングシステムおよび Linux オペレーティング環境でのデフォルトのディレクトリおよびポート番号などの参照資料をリスト表示します。
『Sun Java Enterprise System 5 アップグレードガイド (UNIX 版)』	以前にインストールされたバージョンから、Java ES 5 へとアップグレードする手順を説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 Upgrade Guide for Microsoft Windows』	
『Sun Java Enterprise System 5 監視ガイド (UNIX 版)』	各製品での Monitoring Framework の設定方法と、Monitoring Console を使用してリアルタイムデータを参照し、監視規則を作成する方法を示します。
『Sun Java Enterprise System 用語集』	Java ES ドキュメントで使用される用語について説明します。

Java ES およびそのコンポーネントに関するすべてのマニュアルの URL は <http://docs.sun.com/prod/entsys.5> です。

## 今回のリリースで修正されたバグ

次の表は、Service Registry 3 で報告されたバグのうち、Service Registry 3.1 で修正またはクローズされたものを示しています。

表1-7 このリリースで修正またはクローズされたバグ

バグ番号	説明
6290339	Organization オブジェクトに対して EmailAddress オブジェクトを取得できない
6297023	発行操作間で、ClassificationScheme の以前の表示が残ったままになる
6298088	マルチバイトのファイル名が付帯オブジェクトに対してサポートされていない
6298946	Organization オブジェクト間に参照を作成しようとするエラーが発生する
6301689	ExtrinsicObject に新しいリポジトリ項目を追加すると、コンテンツのバージョンコメントが失われる
6303812	ユーザー名が重複していると、不明なエラーメッセージが表示される
6305138	UDDI リソースバンドルがローカライズされていない
6305210	Application Server ドメインが英語以外のロケールを使用していると、Registry は英語のロケールを使用できない
6307262	名前によるクエリーで、各 ClassificationScheme の標準的なコピーが複数個、取得される
6312083	検索によって予期しない結果が返される場合がある
6312094	証明書の識別名を作成するときに、登録ウィザードが必要な値を無視してしまう
6312531	ExternalLink および ServiceBinding オブジェクトに対して URI を設定しようとする失敗する
6313327	再インストールのあと、Service Registry の設定に失敗する
6313372	オンラインヘルプの文字列のフランス語翻訳が正しくない
6313791	-alias オプションを使用すると管理ツールが失敗する
6316300	デフォルト以外のロケールで作成されたオブジェクトに名前が付いていない
6317212、6317242、6317489、6317568、6322668、6325023	Web コンソールに、英語以外のロケールのローカライズされていない文字列が含まれている
6318002	ExtrinsicObject または ExternalLink を不正な Concept を使用して作成するとエラーが発生する
6323057	オブジェクト作成用の AuditableEvent を削除すると例外が発生する

表 1-7 このリリースで修正またはクローズされたバグ (続き)

バグ番号	説明
6324423	「適用」ボタンをクリックする前にリポジトリ項目を表示しようとする とエラーが発生する
6324437	ピンドオブジェクトが、その後の検索で重複して表示される
6325095	エクスプローラに正しくないデータが表示される
6325116	-locale オプションを使用すると管理ツールが正しく起動しない
6329272	Service Registry を再インストールすると、既存のリポジトリデータベースが 削除される
6330540	サーバーの再起動の直後にログインすると例外が発生する
6331538	ClassificationNode を既存のノードに追加できない

## 既知の問題点とバグ

次に示す既知の問題とバグは、Service Registry 3.1 リリースの操作に影響を与えません。

### 6248218: バージョン管理された RegistryPackage のコンテンツが失われる

問題の概要: バージョン管理が有効な場合、オブジェクトの新しいバージョンを作成するために RegistryPackage オブジェクトを変更すると、すべてのパッケージのコンテンツが新しいバージョンから消失します。

対処方法: バージョン管理を有効にしないでください。詳細は、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリオブジェクトのバージョン管理の有効化」を参照してください。

### 6248293: Classification がオブジェクトの古いバージョンと新しいバージョンの両方に追加される

問題の概要: バージョン管理が有効な場合、オブジェクトの1つのバージョンに Classification を追加してオブジェクトを保存すると、Classification が古いバージョンと新しいバージョンの両方に存在するようになります。

対処方法: バージョン管理を有効にしないでください。詳細は、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリオブジェクトのバージョン管理の有効化」を参照してください。

### 6248418: Classification、ExternalIdentifier、または Slot を追加すると、副作用として ExternalLink が削除される

問題の概要: バージョン管理が有効な場合、ExternalLink を持つオブジェクトに Slot、Classification、または ExternalIdentifier を追加すると、ExternalLink がオブジェクトの新しいバージョンから消失します。

対処方法:バージョン管理を有効にしないでください。詳細は、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリオブジェクトのバージョン管理の有効化」を参照してください。

**6359188:**ユーザーが所有している非推奨オブジェクトとの間に関連付けを作成しようとしても、`IllegalStateException`が発生しない

問題の概要:JAXR仕様では、ユーザーが、非推奨のオブジェクトとの間に関連付けを作成することは許可されていません。ただし、Service Registry JAXR プロバイダでは、その非推奨オブジェクトを所有しているユーザーであればこのような関連付けを作成できます。

**6374079:**PersonとUserの詳細領域が同一ではない

問題の概要:Web コンソールで、Person オブジェクトには `PostalAddress`、`EmailAddress`、`TelephoneNumber` がすべて含まれていますが、ユーザーは Person オブジェクトの「詳細」領域にこれらの属性を追加できません。

対処方法:Person オブジェクトの代わりに User オブジェクトを作成してください。User オブジェクトには、これらのすべての属性を追加できます。

**6407168:**管理ツールの `add association` コマンドで紛らわしいエラーが出力される

問題の概要:管理ツールのコマンド `add association` を発行して、そのユーザーに実行する権限のない関連付けを作成しようとする、紛らわしいエラーメッセージが表示されます。たとえば、管理者でないユーザーがタイプ `HasMember` の関連付けを作成しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
No Concept object exists for type: HasMember
```

**6407195:**大半の管理ツールコマンドが `lcd` 設定を無視する

問題の概要:管理ツールの `lcd` コマンドを使用して現在のローカルディレクトリを設定すると、`cp` コマンドはこのディレクトリに対する相対パス名の引数を受け入れません。ただし、ほかのほとんどのコマンド (`add user`、`import`、`keystoreMover` など) はそのように動作しません。これらのコマンドの場合は、絶対パス名を指定する必要があります。

**6407974:**一時ディレクトリに多数のファイルが取り残される

問題の概要:WSDL カタログ化サービスは、サーバー上の、`install.properties` ファイルの `java.io.tmpdir` プロパティで指定されたディレクトリ内に XML および XSLT ファイルを残します。さらに、ユーザー認証プロセスは同じディレクトリ内に、`.omar` で始まり、サフィックスが `.jks` のファイルを残します。これらのファイルは、Registry ドメインが停止されるまで削除されません。

対処方法:次のような名前のファイルは削除できます。????? の文字列は 5 桁の数字を表します。

CanonicalXMLValidationService\_OutputFile?????.xml  
InvocationControlFile\_WSDLValidation?????.xslt

**6436598:** ソースオブジェクトを削除または更新しても、カタログ化されたオブジェクトが WSDL カタログ化サービスによって削除または更新されない

問題の概要:WSDL カタログ化サービスを使用して、Registry に WSDL ファイルを発行することによってサービスを作成すると、そのサービスの一部である多数のオブジェクトが Registry によって作成されます。そのサービスや WSDL ファイルを削除または更新しても、これらのオブジェクトは削除または更新されません。代わりに、個別に削除または更新する必要があります。サービスや WSDL ファイルを削除または更新したら、カタログ化されたオブジェクトを削除または更新するようにしてください。

**6479361: FindAllMyObjects** の表示に呼び出し元のユーザーが含まれるべきではない

問題の概要:Web コンソールでユーザーが FindAllMyObjects クエリーを選択して実行すると、結果の表示には、クエリーを実行したユーザーの User オブジェクトが、そのユーザーが所有しているほかのすべてのオブジェクトとともに含まれます。ユーザーが誤ってこのオブジェクトを削除すると、重大な問題が発生します。そのユーザーとして発行したオブジェクトに対してアクションを何も実行できなくなり、さらにオブジェクトを発行するにはユーザー登録をやり直す必要があります。本来 FindAllMyObjects クエリーでは、この User オブジェクトが表示されてはなりません。このオブジェクトは、GetCallersUser クエリーのみで表示されるべきです。

対処方法:自分の User オブジェクトを削除しないように注意してください。

**6487653:** オブジェクトの作成で「状態の設定または変更」ボタンが動作しない

問題の概要:ユーザーが Web コンソールで任意のタイプのオブジェクトを作成する場合、「状態の設定または変更」ボタンはグレー表示ではありません。ただし、まだ作成されていないオブジェクトの状態を設定または変更することはできません。このボタンをクリックすると、オブジェクトが見つからないというエラーメッセージが表示されます。

対処方法:作成中のオブジェクトの「状態の設定または変更」ボタンをクリックしないようにします。「適用」をクリックしてオブジェクトの作成を完了してから、そのオブジェクトを検索して状態を変更します。

**6499274、6501767:** 変更したオブジェクトの状態が NULL

問題の概要:オブジェクトを作成すると、状態は Submitted となっています。しかしオブジェクトを変更して保存すると、状態が null に変わります。状態は Submitted のままであるべきです。

Web コンソールでは、オブジェクトを変更すると、状態プルダウンメニューのテキストが「送付」から「状態の選択」に変わります(バグ 6501767)。

**6500654: 「Classification ノードの選択」ウィンドウの説明とボタンが一致しない**

問題の概要: Web コンソールの検索領域で「Classification ノードの選択」をクリックすると、Concept を選択したあとで「OK」をクリックするようにというテキストが表示されますが、ボタンのラベルは「閉じる」になっています。

**6500668: 「ユーザー登録ウィザード」にアスタリスクに関する説明がない**

問題の概要: Web コンソールで、「新規ユーザーの詳細」フォームおよび「ユーザー認証の詳細」フォームにはアスタリスクが含まれていますが、フォームにはアスタリスクが必須のフィールドを示しているという説明がありません。

対処方法: オンラインヘルプに、どのフィールドが必須であるかが記載されています。

**6502100: WSDL カタログ化サービスがスラッシュで終了する java.io.tmpdir を処理しない**

問題の概要: Solaris、HP-UX、および Windows プラットフォーム上では、JVM プロパティ `java.io.tmpdir` がスラッシュ (/) で終了する値に設定されている場合、zip ファイルに対して WSDL カタログ化サービスを使用しようとする失敗します。この失敗は、カタログ化サービスが要求中のファイルの 1 つを見つけられなかったというメッセージを含む `CatalogingException` として示されます。

この問題は、`java.io.tmpdir` のデフォルトの設定がスラッシュで終了しない Linux では発生しません。

対処方法: `java.io.tmpdir` の値を変更し、スラッシュで終了しないようにします。

次の手順を実行します。

- 『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「Application Server 管理コンソールを使用する」の説明に従って、Application Server の管理コンソールにログインします。
- 「設定」ノードを開きます。
- サーバーノード `server-config (Admin Config)` を開きます。
- 「JVM 設定」をクリックします。
- 「JVM オプション」タブをクリックします。
- 「JVM オプションを追加」をクリックします。
- テキストフィールドに次のように入力します(すべてを1行で入力)。

Solaris OS および HP-UX の場合: `-Djava.io.tmpdir=/var/tmp`

Windows の場合: `-Djava.io.tmpdir=c:\DOCUME~1\ADMINI~1\LOCALS~1\Temp`

- 「保存」をクリックします。
- 『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリ用 Application Server ドメインを停止および再起動する」にある説明に従います。

これらの手順を実行したあと、複数の WSDL ファイルを含む zip ファイルを発行できるようになります。

**6507387:**バージョン管理が有効な場合、既存の Service を Organization に追加しようとすると失敗する

問題の概要:バージョン管理を有効にした状態で JAXR プロバイダを使用して、Organization を保存する前に既存の Service オブジェクトを追加する Organization オブジェクトを作成すると、プログラムは失敗し、スタックトレースが出力されません。

**6513883:**HP-UX システム上で、Internet Explorer 6 でのユーザー登録が失敗する

問題の概要:HP-UX システム上の Web コンソールで Internet Explorer 6 を使用してユーザー登録を実行すると、生成された証明書へのアクセスに問題が発生します。特に、登録して、生成された証明書をダウンロードしてから Internet Explorer 6 にインポートすると、Service Registry に 1 度はログインできますが、そのあとのログインの試みは失敗します。サーバーログファイルには、Assertion 失敗と表示されます。

対処方法:HP-UX システム上の Web コンソールでは、Firefox などの別のブラウザを使用します。

## 互換性について

この節では、互換性に関連した次の問題について説明します。

- 16 ページの「サポートが終了する機能について」
- 16 ページの「互換性に関連したバグ」

サポートが終了する機能について

ユーザー登録メカニズム

Service Registry の本リリースは、独自のユーザー管理および認証メカニズムに依存しています。将来的な Registry のリリースでは、これは SAML ベースのメカニズム (eXML Registry 標準で指定されている。このコンポーネントはこの標準の実装) に更新する予定になっています。

互換性に関連したバグ

Service Registry 3.1 の次のバグが、互換性に関連しています。

**6422192:** Service Registry 3.0 で Service Registry 3.1 管理ツールを使用していると NullPointerException が発生する

問題の概要:配備済みの Service Registry 3.0 で Service Registry 3.1 管理ツールを使用すると、cp や rm などのコマンドで NullPointerException が発生します。

対処方法:Service Registry 3.1 管理ツールは Service Registry 3.1 でのみ使用し、Service Registry 3.0 では Service Registry 3.0 管理ツールを使用してください。

**6463868:JDK 1.6** を使用しているクライアントプログラムまたはサーバーでエラーが発生する

問題の概要:JAXR クライアントプログラムが JDK 1.6 環境で実行されている場合、または Service Registry が JDK 1.6 を実行しているシステムに配備されている場合は、プログラムがクエリーを実行したり操作を発行したりするとランタイムエラーが発生します。根本の問題は、Application Server が SOAP with Attachments API for Java (SAAJ) の Version 1.2 を使用しているにもかかわらず、JDK 1.6 が Version 1.3 を使用していることにあります。

対処方法:必要な回避方法には、クライアントシステムに対するものと、サーバーに対するものの 2 種類があります。

- クライアントが JDK 1.6 を実行しており、サーバーが JDK 1.5 を実行している場合は、17 ページの「クライアントシステムの回避方法を実行するには」の手順に従ってください。
- クライアントが JDK 1.5 を実行しており、サーバーが JDK 1.6 を実行している場合は、18 ページの「サーバーシステムの回避方法を実行するには」の手順に従ってください。
- クライアントとサーバーの両方が JDK 1.6 を実行している場合は、両方の回避方法の手順に従ってください。

## ▼ クライアントシステムの回避方法を実行するには

クライアントシステムの回避方法は、クライアントシステムが JDK 1.6 を実行している場合に必要です。この回避方法には、次の作業が含まれます。

- SAAJ 1.3 JAR ファイルがまだ存在しない場合は、それらのファイルのクラスパスへの追加
- クライアントプログラムの Ant ビルドファイルでの 4 つのシステムプロパティの設定

### 1 クラスパスに次の JAR ファイルが含まれていることを確認します。

Solaris OS の場合:

```
/usr/share/lib/saaj-api.jar  
/usr/share/lib/saaj-impl.jar
```

Linux および HP-UX システムの場合:

```
/opt/sun/share/lib/saaj-api.jar  
/opt/sun/share/lib/saaj-impl.jar
```

たとえば、Linux システムの Ant ターゲットに次のような設定が含まれていれば、クラスパスは正常です。

```
<path id="classpath">
  <fileset dir="/opt/sun/share/lib">
    <include name="*.jar"/>
  </fileset>
  ...
</path>
```

- 2 build.xml ファイル内の <java> ターゲットに次の <sysproperty> タグを追加します。

```
<sysproperty key="javax.xml.soap.MessageFactory"
  value="com.sun.xml.messaging.saaj.soap.ver1_1.SOAPMessageFactory1_1Impl"/>
<sysproperty key="javax.xml.soap.MetaFactory"
  value="com.sun.xml.messaging.saaj.soap.SAAJMetaFactoryImpl"/>
<sysproperty key="javax.xml.soap.SOAPConnectionFactory"
  value="com.sun.xml.messaging.saaj.client.p2p.HttpSOAPConnectionFactory"/>
<sysproperty key="javax.xml.soap.SOAPFactory"
  value="com.sun.xml.messaging.saaj.soap.ver1_1.SOAPFactory1_1Impl"/>
```

## ▼ サーバシステムの回避方法を実行するには

サーバシステムの回避方法には、次の作業が含まれます。

- Application Server の lib ディレクトリへの SAAJ 1.3 JAR ファイルの配置
- システムプロパティを設定するための 2 つの JVM オプションの追加
- Application Server の停止と再起動

- 1 Application Server の lib ディレクトリに移動します。

Solaris OS の場合: `cd /opt/SUNWappserver/appserver/lib`

Linux および HP-UX システムの場合: `cd /opt/sun/appserver/lib`

- 2 Application Server の lib ディレクトリ内の 2 つの SAAJ JAR ファイルのバックアップコピーを作成します。次に例を示します。

```
cp saaj-api.jar saaj-api.jar.v1.2
cp saaj-impl.jar saaj-impl.jar.v1.2
```

- 3 Application Server の lib ディレクトリに SAAJ 1.3 JAR ファイルをコピーします。

Solaris OS の場合:

```
cp /usr/share/lib/saaj-api.jar .
cp /usr/share/lib/saaj-impl.jar .
```

Linux および HP-UX システムの場合:

```
cp /opt/sun/share/lib/saaj-api.jar .
cp /opt/sun/share/lib/saaj-impl.jar .
```

- 4 『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「Application Server 管理コンソールを使用する」の説明に従って、Application Server の管理コンソールにログインします。
- 5 「設定」ノードを開きます。
- 6 サーバーノード server-config (Admin Config) を開きます。
- 7 「JVM 設定」をクリックします。
- 8 「JVM オプション」タブをクリックします。
- 9 「JVM オプションを追加」をクリックします。
- 10 テキストフィールドに、次の行を入力します。

```
-Djavax.xml.soap.MessageFactory=com.sun.xml.messaging.saaj.soap.ver1_1.SOAPMessageFactory1_1Impl
```

- 11 「JVM オプションを追加」をもう一度クリックします。
- 12 テキストフィールドに、次の行を入力します。

```
-Djavax.xml.soap.MetaFactory=com.sun.xml.messaging.saaj.soap.SAAJMetaFactoryImpl
```
- 13 「保存 (Save)」をクリックします。
- 14 『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリ用 Application Server ドメインを停止および再起動する」にある説明に従います。

#### 6475651: Application Server をアップグレードしたあと、Java ES 2005Q4 Service Registry のログインが失敗する

問題の概要:以前のバージョンの Service Registry (Java ES 2005Q4 以降) をインストールして使用していた場合で、Application Server の Java ES 5 バージョンにアップグレードしたが、Service Registry の Java ES 5 バージョンにはアップグレードしていない場合は、Web コンソールで以前に作成したのと同じ証明書を使用しようとするログインの失敗が発生します。

対処方法:web.xml ファイルと Service Registry のセキュリティーポリシーファイルを編集します。

Registry の Application Server ドメインを停止し、web.xml ファイルを編集するには、次の手順に従います。

1. Service Registry のインストールディレクトリに移動します。

Solaris OS の場合: **cd /opt/SUNWsoar/install**

Linux および HP-UX システムの場合: **cd /opt/sun/SUNWsoar/install**

2. Registry の Application Server ドメインを停止します。

**Ant-base/ant -f build-install.xml appserver.domain.stop**

3. ディレクトリ *RegistryDomain-base*

/domains/registry/applications/j2ee-modules/soar/WEB-INF/ に移動します。

4. テキストエディタで、ファイル web.xml を開きます。

5. <security-constraint> タグ内の、</web-resource-collection> タグのあとに、次の行を挿入します。

```
<auth-constraint>
  <role-name>have.client.cert</role-name>
</auth-constraint>
```

6. </security-constraints> タグのあとに、次の行を挿入します。

```
<error-page>
  <error-code>400</error-code>
  <location>/registry/thin/AuthenticateError.jsp</location>
</error-page>
<security-role>
  <description>all subjects who have client certificates</description>
  <role-name>have.client.cert</role-name>
</security-role>
```

7. web.xml ファイルを保存して閉じます。

セキュリティーポリシーファイルを編集して、ドメインを再起動するには、次の手順に従います。

1. 次のディレクトリに移動します。

Solaris OS の場合: **cd /var/opt/SUNWsoar/domains/registry/config**

Linux および HP-UX システムの場合: **cd /var/opt/sun/SUNWsoar/domains/registry/config**

2. テキストエディタで、ファイル server.policy を開きます。

3. このファイルに次の許可を追加します。

```
grant codeBase "file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/soar/WEB-INF/lib/-" {
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission "suppressAccessChecks";
};
```

```
grant codeBase "file:${com.sun.aas.instanceRoot}/generated/jsp/j2ee-modules/soar/-" {
    permission java.lang.reflect.ReflectPermission "suppressAccessChecks";
};
```

4. server.policy ファイルを保存して閉じます。
5. Registry の Application Server ドメインを再起動します。  
*Ant-base/ant -f build-install.xml appserver.domain.start*
6. Web ブラウザを開き、URL `http://localhost:6060/soar` を表示します。ログインして発行できるようになっているはずです。

#### 6491246:HP-UX プラットフォームでアップグレードが失敗する

問題の概要:HP-UX システム上で以前のバージョンの Service Registry (Java ES 2005Q4 以降) をインストールして使用していた場合、Service Registry の Java ES 5 バージョンにアップグレードすると、HADB (High Availability Database) に問題があるというエラーメッセージとともにインストールが失敗します。問題は、HADB パッケージが、Java ES 5 インストーラがデフォルト以外の場所と認識している場所にインストールされていることです。

この問題は、Application Server の Java ES 2005Q4 バージョンをアンインストールし、Service Registry および Application Server の Java ES 5 バージョンをインストールする場合にも発生します。

対処方法:Application Server をアンインストールした場合、再インストールする前に sun-hadb パッケージを削除する必要があります。

Service Registry の Java ES 2005Q4 バージョンから Java ES 5 バージョンに直接アップグレードする場合は、手順がより複雑になります。

1. sun-hadb パッケージを削除します。
2. Service Registry および Application Server の Java ES 5 バージョンをインストールします。
3. ファイル `/opt/sun/appserver/config/asenv.conf` を以下のように編集します。

- 変更前の行

```
AS_ANT="/opt/sun/share/lib/ant/bin"
```

から

```
AS_ANT="/opt/sun/bin"
```

- 変更前の行

```
AS_ANT_LIB="/opt/sun/share/lib/ant/lib"
```

から

```
AS_ANT_LIB="/opt/sun/share/lib"
```

- 次の2行を追加します。

```
AS_DERBY_INSTALL="/opt/sun/javadb"
```

```
AS_MFWK_HOME="/opt/sun/mfwk/share"
```

4. ディレクトリ `/opt/sun/appserver/lib` で、サブディレクトリ `endorsed` を作成します。
5. ファイル `/opt/sun/javadb/lib/derby.jar` をディレクトリ `/opt/sun/appserver/lib/endorsed` にコピーします。

## 各国語化の問題

Service Registry 3.1 の次のバグが、ローカライズに関連しています。

### 6276676: Web コンソールに、ローカライズされた文字列が表示されない

問題の概要: Web コンソールで、ブラウザのロケールを切り替えて言語を再設定しても、いくつかのラベルが以前の言語のままです。

対処方法: 「ログアウト」または「セッションを終了」をクリックし、セッションを再開するか、またはもう一度ログインしてください。

### 6493416: オンラインヘルプのリンクが英語ページになっている

問題の概要: オンラインヘルプが利用可能な英語以外のロケールで Web コンソールを使用している場合、検索結果ページの「ブックマークと関連付けのヘルプ」のリンクは、使用しているロケールではなく英語のページへリンクされています。

### 6496070: イベントタイプ名が、どのロケールにも翻訳されていない

問題の概要: Web コンソールで、「監査証跡」タブの「詳細」領域内のオブジェクトをクリックすると、「イベントタイプ」フィールド (Created、Updated など) のテキストが常に英語で表示されます。

### 6499672: 英語以外のロケールで、オンラインヘルプのページが2ページ足りない

問題の概要: Web コンソールのオンラインヘルプでは、英語以外のすべてのロケールで最後の章 (トラブルシューティング) の最後の2つの節が欠けています。

対処方法: この節は英語のオンラインヘルプでのみ参照できます。『Service Registry 3.1 ユーザーズガイド (2006Q4)』の第4章「障害追跡」を参照してください。

### 6500664: 日本語ロケールのオンラインヘルプで翻訳されていない文字列がある

問題の概要: Web コンソールのオンラインヘルプで、ほかのマニュアルへの相互参照 (たとえば、『Service Registry 3.1 管理ガイド』) は、日本語に翻訳されていません。

**6500673:** 日本語ロケールで名前と住所の順序が正しくない

問題の概要: Web コンソールの「ユーザー登録」ウィザードで、「新規ユーザーの詳細」フォームの名前および住所フィールドの順序が日本語ロケール用にローカライズされていません。

**6500677:** 日本語ロケールでオンラインヘルプに不正なリンクがある

問題の概要: 日本語ロケールの Web コンソールのオンラインヘルプにある「はじめに」の部分で、「Default Paths and File Names」の節が表示されたときに「次へ」のリンクをクリックしても、「Page Not Found」のエラーが表示されます。このリンクは、存在しないページへのリンクです。

**6509544:** いくつかのエラーメッセージが翻訳されていない

問題の概要: いくつかのエラーメッセージは英語以外のロケールに翻訳されていません。たとえば、リポジトリ項目を指定せずに付帯オブジェクトを作成しようとした場合、または所有していないオブジェクトを変更しようとした場合に表示されるエラーメッセージは、部分的にしか翻訳されていません。

**6510165:** 「詳細」タブのオブジェクト名が翻訳されていない

問題の概要: Web コンソール内のオブジェクトの「詳細」領域内では、「詳細」タブのオブジェクト名が翻訳されておらず、代わりに Java オブジェクト名が使用されます。また、フランス語ロケールでは語順が正しくありません。

**6510540:** リダイレクトページの 1 つの行が日本語に翻訳されていない

問題の概要: Web コンソールで Registry にログインしたときに表示されるリダイレクトページでは、最後の 1 行が日本語に翻訳されていません。

**6515105:** いくつかのロケールで、「ユーザー登録」テキストフィールドがない

問題の概要: Web コンソールの「ユーザー登録」ウィザードで、フランス語、ドイツ語、およびスペイン語のロケールでは、「新規ユーザーの詳細」フォームに「州または都道府県」用のテキストフィールドがありません。

## マニュアルに関する情報

Service Registry 3.1 の次のバグが、マニュアルに関連しています。

**6500315:** オンラインヘルプのページが 1 ページ足りない

問題の概要: Web コンソールのオンラインヘルプで、「はじめに」の「Searching Sun Product Documentation」の節が欠けています (すべてのロケール)。

対処方法: 完全な「はじめに」(英語) は、『Service Registry 3.1 ユーザーズガイド (2006Q4)』でオンラインで参照できます。

**6501734:** オンラインヘルプで、ディレクトリの探索用の名前が間違っている

問題の概要: Web コンソールで、「探索」タブのオンラインヘルプではルートディレクトリ名が誤って root と記載されています。正しくは、registry です。

対処方法: 正しいマニュアルは、『Service Registry 3.1 ユーザーズガイド (2006Q4)』の「「探索」タブの使用」です。

# 索引

---

よ  
用語集、リンク、10

